

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

# つ の ぶ え

TSUNOBUE

2021年8月20日

第435号



社会福祉法人

小羊学園

住 所 〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲 松 義 人

印刷所 アド・アール株式会社



## 今号のMENU

1 P...

理事長巻頭言

2 P-5 P...

特集

児童期を支える  
浜松みをつくし特別  
支援学校開校でどう  
変わった？

三方原スクエア児童部

ばるしあ

学校インタビュー

他機関連携

6 P...

研修報告

リレートーク

支える会報告 他



さあ学校へ出発！ ～三方原スクエア児童部、毎朝の通学風景～

小羊学園は、重い知的障がい児の入所施設として開園した。「重い」を言い換えると「ひととき困難な状況にある」であり、「知的障がい児」は成長してもなかなか個人の尊厳を認めてもらいにくいような子どもたちであることを指しているのではないかと思います。施設入所は、子どもたちを家庭と地域から離し、施設の生活の中で支援することであり、開園当時は学校教育の機会も与えられなかった。1979年に重い障がい児にも就学の機会が与えられるようになり、入所する子どもは全国的にも激減した。それでも、小羊学園が児童期の支援を継続してきたのは、そこに創立の精神が秘められていると思ったからである。支援の幅は広がったが、今もなお私たちの住む社会は子どもたちにとって生き易いとは思えない。大人たちの欲望と権力に翻弄され、社会の都合で我慢を強いられる。これはセンセーショナルに報じられる一部の子どもたちのことではない。私たちの隣にいる自分の本当の気持ちをなかなか理解してもらえない、本当に必要な支援がなかなか得られない子どもたちのことである。そんな小さな命の輝きを知ってもらおうことができるとは社会をみんなでつくっていくきたい。

稲松義人

## 児童期を支える

浜松みをつくし特別支援学校開校でどう変わった？  
障害児入所施設と放課後デイサービスの今

### 浜松みをつくし

#### 特別支援学校の開校

2021年4月、浜松市北区広岡に「静岡県立浜松みをつくし特別支援学校」が開校されました。開校の経緯には、既存の県立浜松特別支援学校および県立浜北特別支援学校の児童数増加、通学距離（校区）の課題等がありました。県教育委員会で検討がなされ、2017年9月に旧県立気賀高校跡地に新たな支援学校が創設されることが決まりました。

その後、2019年1月に工事着工され、この4月に開校、小・中・高等部175人が入・転学しました。

浜松みをつくし特別支援学校の校区となり子どもたちも転学した「三方原スクエア児童部」「ぱるしあ」に転学前後の様子、そして現在の様子を伺いながら知的に障がいのある子どもたちの支援について考察してもらいます。

### 「三方原スクエア児童部」

児童発達支援管理責任者 小島洋一

#### ① 三方原スクエア児童部について

福祉型障害児入所施設である三方原スクエア児童部（以下、スクエア児童部）では、現在小学校6年生から高校3年生までの児童14名が3ユニットに分かれて生活をしています。障害の程度や種類は様々で、軽度の方には軽度の方に向けた専門的な支援を、重度の方には重度の方のための専門的な支援を行うことのできる知識と技術が必要となっています。

#### ② 複数の学校に分かれて通学

今年度から浜松みをつくし特別支援学校が開校したことに伴い、スクエア児童部には市立中学校を卒業した新入学の高校1年生と、浜北特別支援学校へ通っていた小・中学生が浜松みをつくし特別支援学校へ転学

しましたが、経過措置として高校2・3年生の児童は今まで通り浜北特別支援学校へ通い続けることになりました。また、小学生1名は市立小学校へ通学していることから、スクエア児童部としては3校の通学支援をしている状況となっています。3つの学校それぞれの行事やスケジュール、登下校の時間なども違うために行事参加や送迎等が難しいことが多々ありますが、各所のご協力をいただくことで何とか調整することができています。

#### ③ 転学にあたっての不安と実際

浜北特別支援学校から浜松みをつくし特別支援学校への転学にあたって



学校から帰ってきて、お片付け

では、環境が大きく変わることから子ども達に混乱があることが予想されました。事前に浜松みをつくし特別支援学校の見学会へ参加をしたり、ドライブの時には学校を見に行ったり、できる限り混乱を軽減できるように工夫してはいましたが、それでも実際の転学の時には大きく崩れてしまう子どももいるのではないかと思います。しかし、実際には私たちが予想していたような大きなトラブルはなく、比較的スムーズに移行することができました。浜北特別支援学校から多く先生が異動配属されたことから、子どもたちの様子をご存じのうえで事前の情報共有も行われており、転学に際して必要な配慮がされていたのが混乱なく移行できた要因ではないかと思います。子どもたち皆も学校を楽しみにしており、笑顔で学校に通うことができています。

#### ④ 転学後の様子

転学して4か月が経過し、子どもたちも新しい学校生活に慣れてきています。最初は緊張感から学校では出していなかった表れも現在では見られるようになってきています。ス



スクエア児童部での様子と同様に、学校の先生方も子どもたちそれぞれの表れの対応に苦慮されており、学校とのより密な情報交換の必要性を感じています。

### ⑤ 通学を通した自立支援

子どもたち自身からの希望もあり、今年度より市立小学校に通う6年生の児童が徒歩での自主下校、浜松みをつくし特別支援学校と浜北特別支援学校に通う高校生1名ずつの生徒は自転車で行き帰りの自主通学を行うことになりました。夏の暑い中でも30分以上自分たちの力で歩いたり自転車をこいだりするのは大変なことだと思いますが、本人たちの



いってきます！送迎車に乗ります

やる気の後押しをされ、始めることにしました。

事前に通学路と交通ルールの確認を職員と一緒に行って繰り返し行い、何かあった時のために携帯電話を用意して使い方のレクチャーをする等、多くの準備が必要でした。

事故に遭うのではないかと、どこかに寄り道してしまわないか等の心配は尽きませんが、職員の目と手を離れて自分の力だけで出来たことを通して身に付く自信は、きつと心配すること以上の価値があると信じて送り出しています。

### ⑥ 発達期の支援をするにあたって

様々な課題を抱えて入所している子どもたちそれぞれに対して、どのように支援にあたっていくべきかというところに私たち支援者は常に頭を悩ませています。今現在の対応が難しいことはもちろんですが、子どもたちがスクエア児童部を退所した後のために支援者としてやっておかなければいけないことはとても多くあります。

日常の業務に加えて子どもたちの難しい表れへの対処、さらに子どもたちの将来に向けての様々な取り組み

みを行う忙しい毎日ではありますが、児童入所施設で支援を行うにあたって忘れてはいけないのは、子どもたちにとってスクエア児童部にいたことが良い思い出として心に残るように心掛けるということではないかと思っています。これから先の困難に立ち向かい乗り越えていくための心の強さが育つには、暖かい気持ちや楽しい思い出が必要です。ご家族から離れて生活している子どもたちにとって、スクエア児童部にいる今がそういった良い思い出になるために、支援者として何ができるかということにも考えを巡らせていきたいと思っています。



遠くても自転車で自主通学

## 「ぱるしあ」

施設長 渥美 雅世

### ① 施設の概要

「ぱるしあ」は、西区大山町の姫街道沿いにある定員10名の放課後等デイサービス事業所です。対象利用児は、小中学生としており、放課後の時間の充実を目指し支援をしています。主な活動内容としては、創作活動、音楽遊び等の室内遊びや、近くの公園に散歩に出掛けたり、畑に行つて収穫を楽しんだりと室外活動も取り入れています。また、夏期・冬期等の長期休暇には、買い物や外食、小グループでの外出等機会を設け、社会体験活動も取り入れています。現在は、コロナ禍による外出自粛等で実施は難しい状況ですが、コロナウイルスが収束した際には、復活していきたいと思っています。

### ② 転学前後の送迎体制

4月から、「ぱるしあ」を利用していたすべての子どもたちは、浜松みをつくし特別支援学校へ転学することとなりました。「ぱるしあ」としては、転学に伴い、送迎時間が大

きく短縮されました。送迎は、小中学校等で下校時間が違うため、時間をずらし2便体制で送迎をする必要があります。以前の浜北特別支援学校への送迎は往復1時間弱掛かりましたが、浜松みをつくし特別支援学校へは往復30分弱で送迎することが可能になり、送迎体制で苦慮することが減りました。



毎日学校での様子を伺います

### ③ 送迎時間の短縮に伴い

以前は、送迎に時間を要したため、「ぱるしあ」に到着し、おやつを頂き、ひと遊びするとすぐお迎えが来るという事も多く、充実した活動の提供が難しく感じていました。転学に伴い、送迎時間が短縮されたことで、「ぱるしあ」で過ごす時間が多少増

え、以前は出来なかった活動に時間を設ける事や、新たな活動内容が提供でき、活動の幅が広がりました。また、創作活動一つを取っても、個別に丁寧伝えることや、ひと手間加え支援の質を高める手助けにもなっていると感じています。多少の時間ですが、その時間を意識し活かしていくことで、有意義な時間に繋がると考えています。

### ④ 転学に伴う児童の変化

転学という大きな環境変化にあたり、子どもたちが緊張感や不安を抱くことによる表われが見られると予測されました。「ぱるしあ」では、変化を極力減らし、今までの流れに沿って過ごせるように配慮しました。転学当初は、送迎車に先生と手をつないで歩いてくる子どもたちの表情は緊張した面持ちでしたが、「ぱるしあ」で過ごす子どもたちは、いつもと同じ元気な様子を見ることができ安心しました。大きな変化や困惑することなく移行することができたのは、事前に学校や家庭において、学校見学や情報共有等の準備ができていたことが大きな要因だと感じています。

### ⑤ 転学後の様子と課題



ゲームを通しルール・協調性を学びます

最近では、子どもたちも緊張感が和らいできたことが、表情や先生の「給食が食べられるようになりました」「今日は〇〇ができました」などの報告から感じ取ることが出来ます。「ぱるしあ」での様子に大きな変化はありませんが、新たな表出は見られるようになってきました。その表出が転学に伴うものなのか、「ぱるしあ」だけなのか、または、家庭や学校でも見られるのか、どのような想いかなのか等の推測をするにあたり、家庭や学校と情報共有することが必要になってきます。速やかに連携が図れるように体制を作っていくことが今後の課題と感じています。

### ⑥ 大切にしたいこと

放課後という短い時間の中で、学校や家庭とは異なる環境でも充実した時間となるために日々模索しながら楽しい空間となるよう支援をしています。そして、子どもたちは、いろいろな経験を積むことが重要と考えています。経験することで、好きなこと得意なことはもちろんのこと、苦手なことも含め、見出すことができます。そしてその一つ一つがその子の理解に繋がっていきます。それは彼らが成人になったときに必ず活かされると思います。私たちは、さまざまな経験をさせる機会を設け、彼らの新たな表出に気づき、自立や自発性を促すことを意識し支援していきたいと思っています。



「さようなら」「また明日」



## 浜松みをつくし特別支援学校にインタビュー!!

**Q 浜松みをつくし特別支援学校の教育目標や校名の由来を教えてください。**

・本校の学校教育目標は「共に学び 共に育ち 共に夢をつかむ」です。本校の児童生徒のみならず、彼らにかかわる友人、家族、地域の皆様などすべての人が、共に学び、育つ姿を目指しています。そして、本校にかかわるすべての人が充実した毎日を送り、夢をつかむことができるように、教育の充実を図っています。

・校名の「みをつくし」は、本校の所在地である細江町のシンボルマークです。「みをつくし」は航路を示す道標ですので、私たち学校は地域に根付き、児童生徒が自ら将来の夢(目標)に向かって進んでいく道標でありたいという願いが込められています。

**Q 転学された児童・生徒は学校生活になじむために学校が配慮したことは?**

・本校は新設校であるため、どの児童生徒にとっても新しい学校です。新しい環境になじむために、年度当初は校内を散策したり、新しい友達や、教職員との良好な関

係づくりにつながる学習にじっくり時間をかけて取り組みました。

・児童生徒にとって学校の所在地が身近な地域と感知することができるよう、積極的に校外学習に出かけました。小中学部は神社や警察署、公園などに出掛け、高等部は将来の働く生活に向けての学習の一環として学校近隣の福祉事業所やフルーツパークの見学をさせていただきました。

・素晴らしい地域の皆様に支えられ、御協力いただけていることが、児童生徒が学校生活に、地域になじんで生活できていることの大きな要因の一つです。今後も地域や関係機関の皆様と共に一步一步前進していきたいと思っています。

浜松みをつくし特別支援学校

地域連携課 伊藤昌明



## 子どもたちの育ちを支えるための多機関連携

### ※※ 浜松市障がい児放課後連絡協議会 ※※

浜松市障がい児放課後支援連絡協議会(以下放課後連)では、浜松市内の放課後支援事業所が加盟する任意団体です。今では、93施設が加盟しており大きな団体となりました。全体研修を実施すると100名を超える職員たちが集まります。放課後連では、法人を超えた研修を企画・実施しながらスキルアップに努め、コロナ禍ではZoomを使って研修を行っています。放課後事業所は他機関との連携を図ることがとても大切で、学校をはじめ様々な関係機関との連携も強化できるように取り組んでいます。



### ※※ より良い福祉と教育を考える会 ※※

障がいのある子どもが成長するうえで、福祉と教育の連携はとても重要です。この会は県西部地域の障害児支援施設と特別支援学校、児童相談所と教育委員会がお互いの機能と役割を確認し、適切な支援の向上を図ることを目的として平成5年に設置、各機関の代表者による年3回の会議が行われてきました。当番機関からの情報提供では、各施設や学校の特色や取り組みの紹介、困難事例の対応なども発題され、積極的な意見交換が行われてきました。昨年度よりコロナの影響で会議は休止していますが、一刻も早い再開を願っています。



## 法人チームリーダー研修

法人内の事業所でチームリーダーとして役割を担っている職員を対象に6月30日研修を実施しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となっていましたでしたが、今年度は会場を5箇所に分散し、オンラインにて実施することができました。テーマを「人材育成システムと方法（スーパービジョン）」とし、聖隷クリストファー大学の福田俊子教授にご講義して頂きました。貴重な時間の中での学びを実践に繋げていけるよう努めていきたいと思っています。



## 2020年度新人振り返り研修

コロナ禍の中での研修との事で、初めて新人職員と顔合わせをしたのはパソコンを使用したオンライン研修でした。2回目の研修ではソーシャルディスタンスを保ちマスクをしての会話でした。グループワークをする際にも模造紙ではなくパソコンやホワイトボードを使用しました。距離を保ち新人職員の悩みや喜びを受け止め共感していくのが難しい研修でしたが良い経験になりました。

マルカート 曾根保行



KOHITSUJI STAFF



## リレートーク

Vol.15

かわい かおり  
河合 香里 さん

2008年入職  
第二ドルチェ  
児童発達管理支援責任者

Q小羊学園を  
志した動機は？

ママ友の紹介がきっかけ。利用者さんも職員さんも笑顔で、職場の雰囲気が良かったのが決め手です。

Qこの仕事の嬉しいことは？

利用者さん個々のペースの中で成長を感じられ、また、それを共有できる仲間がいることです。

Qちょっとプライベートを教えてください！

子どもたちの義務教育が終え、休日は、今まで以上に家でのおんびり携帯小説を読み満喫しています。

Q誰にリレーしましょうか？ また一言メッセージを！

相談支援事業所アグネスの鈴木崇之さんにバトンを渡します。コロナ・猛暑と体調管理が大事な時期ですがお互いに体を労わりつつ乗り切りましょう。

## 社会福祉法人 小羊学園 新規採用募集中

\*小羊学園では、2022年4月採用の入職希望者の募集をしています。障がい者福祉に興味のある方、人と関わることが好きな方、私たちと一緒に働きませんか？

詳しくは、小羊学園ホームページの募集要項（8月末締め切りの延長）をご確認ください。

## あ と が き

今回は「児童期を支える」テーマで特集を組みました。障がいをもつ子どもたちを支えるため、家族を中心に、福祉・教育・行政・医療その他様々な人たちが多角的にサポートをしている一端がご紹介できたと思います。未来に向かって子どもたちが普通に生活し、学びあう社会を作るためには、直接かかわるスタッフだけでなく、様々な価値観をもつ多くの皆さんに関心を持っていただきたいと思っています。そのためには、私自身も、法人や福祉の枠を超えて「地域の人」として何ができるのか、考えていきたいと思います。

(T)

## 小羊学園を支える会

2021年度 寄付金報告

6月～7月分 663,320円 (36件)  
累 計 1,306,167円 (58件)

多くのお支えに感謝申し上げます

### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園  
ゆうちょ銀行 〇八九店 当座預金0107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337